

佐賀県5大学共同開講 「子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）」前半基礎ユニット報告

○本年度（平成28年度）、「子ども発達支援士養成プログラム」に受講登録した佐賀県5大学の学生は122名であった。

○このプログラムに登録した学生は、所定の実習と科目を履修することにより、「子ども発達支援士（基礎）」（主に短期大学生）または「子ども発達支援士」（四年制大学生及び卒業後プログラムを修了した短大卒業生）の資格が大学コンソーシアム佐賀より認定される。（それぞれの資格の説明は関連ページを参照のこと）

○このプログラムの中で、5大学が共同開講する科目が「子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）」である。この科目は前・後学期、各1日の集中講義と30時間以上の支援実習Ⅰによって構成されている。集中講義を、前半基礎ユニット（講義・グループワーク）、後半基礎ユニット（講義・グループワーク）と呼んでいる。



【鬼塚 良太郎先生（九州龍谷短期大学）】

○支援実習Ⅰの事前指導として、前半基礎ユニットを5月29日（日）の午前と午後、佐賀大学で開講した。

○午前の部は、講義である。昨年度と同様、受講した学生が新入生中心であったので、九州龍谷短期大学の鬼塚良太郎先生が、「発達障害の基礎知識」のテーマのもと、発達障害のある幼児・児童が見せる行動とその背景、そして支援の基本について説明した。

そしてNPO 法人セルフの安永康子さんに発達障害のある子どもたちのことや支援実習Ⅰに臨む際に注意してほしいことなどを話していただいた。続いて、資格を取得して保育園で働いている、川浪唯さんと坂元美帆さんに、これから資格取得を目指す学生に伝えたいことを話していただいた。



【安永康子先生（NPO 法人セルフ）】

○午後の部は、5大学の学生が大学の壁を越えて、5～6名程度でグループをつくり、午前中の講義も踏まえながら、「子どもにかかわる上で大切にしたいこと」をテーマに、KJ法を使って、グループワークを行なった。グループごとに大学教員が指導・助言者としてついた。



【川浪唯先生（子ども発達支援士）】



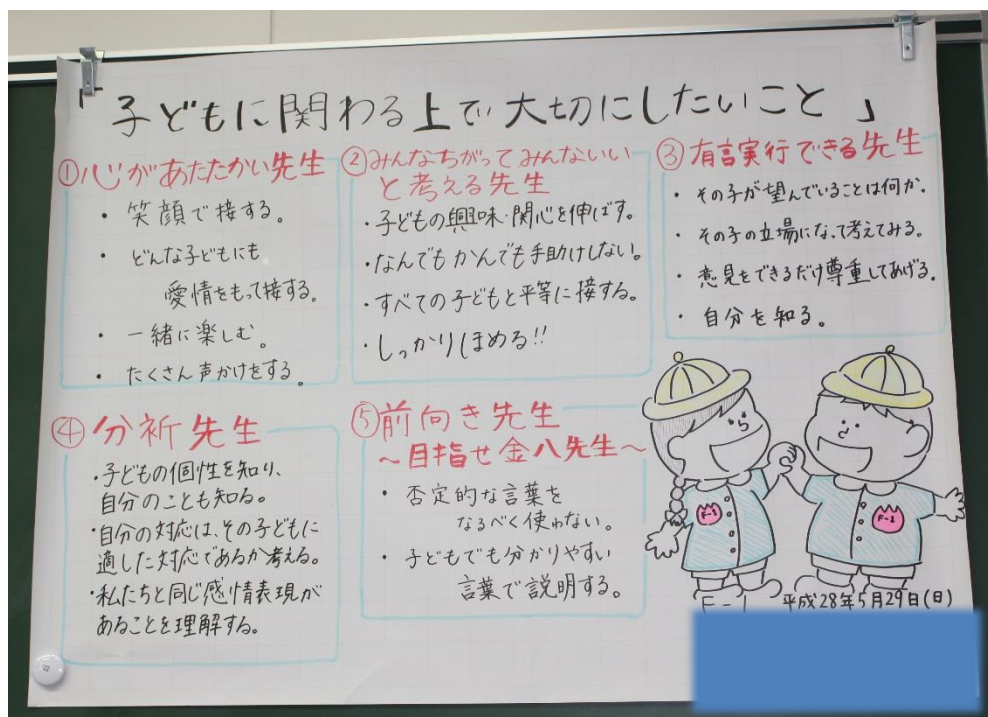
【グループワークの様子】



【坂元美帆先生（子ども発達支援士）】

○下記は、グループワークのまとめの一例である。

これから支援実習Ⅰに臨むにあたって、「子どもにかかわる上で大切にしたいこと」として、このグループは5つの点にまとめている。



【グループワークの一例】

○下記は、ある学生のワークシートの抜粋である。

佐賀県5大学の学生が一同に集まって受講し、グループワークを行なったことに新鮮さを感じ、意欲をもって支援実習Ⅰに臨みたい、と感想を述べている。

グループで話し合うことで、午前中の講義の内容を振り返ることができて嬉しかった。その中で、まず私は、今までの自分の考え方について反省する点がたくさんありました。発達障害の子は、他人の気持ちを考えて行動したりなど、人より困難なことが多いのは事実ですが、そこで線引きをしてはいけないということを改めて感じました。彼らも誰かを好きになる感情や、自尊心など、誰もが持つ感情を持っていて、その気持ちを理解しながら、接しなければならぬなと思いました。また一番印象的だったのは、ただ自分がどう思って接しているかではなく、相手(子ども)がどう思ったか、感じたか、を大切にしたいという言葉でした。自己満足で、子どもと接することのないようにバジがけたいと強く思いました。今日学んだことを、これから実習に生かしながら、経験をたくさん積んでいきたいと思います。

○学生たちは、支援実習Ⅰ終了後の12月、再度全員が集合し、後半基礎ユニットを受講する。その時のグループワークでは、同じメンバーが集まり、5月段階で大切だと思っていたことについて、実習を踏まえて、さらに深めた議論をさせたい。